



令和6年8月8日

各報道機関文教担当記者 殿

若山川（珠洲市）沿いで掘削（トレンチ）調査を開始 —地表変状（断層崖）の成因や再来性を分析—

金沢大学理工研究域地球社会基盤学系の平松良浩教授，富山大学学術研究部都市デザイン学系の安江健一准教授等からなる研究チームは，**2024年8月19日に珠洲市若山町において掘削（トレンチ）調査を開始します。**

2024年1月1日16時10分に発生した令和6年能登半島地震（マグニチュード7.6，最大震度7）に伴い，珠洲市若山町の若山川沿いに地表変状（断層崖）が生じました。この地表変状は地震を起こした断層ではなく，その成因については不明です。また，同様の地表変状の過去における有無も不明です。

今回，実施する掘削（トレンチ）調査により，地表変状の成因や過去に地表変状があったかどうかが明らかになることが期待されます。掘削（トレンチ）調査は約2ヶ月の期間で実施し，研究成果を令和6年度中に発表し，今後の防災・減災の基礎情報として利用される予定です。

【本件に関するお問い合わせ先】

■研究内容に関すること

金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系 教授
平松 良浩（ひらまつ よしひろ）
TEL: 076-264-6519
E-mail: yoshizo@staff.kanazawa-u.ac.jp

■広報担当

金沢大学理工系事務部総務課総務係
宮本 頌子（みやもと しょうこ）
TEL: 076-234-6957
E-mail: s-somu@adm.kanazawa-u.ac.jp

富山大学 学術研究部都市デザイン学系 准教授
安江 健一（やすえ けんいち）
TEL : 076-445-6654
Email : yasueken@sus.u-toyama.ac.jp

富山大学総務部総務課広報・基金室
篠原 良介（しのはら りょうすけ）
TEL: 076-445-6028
E-mail: kouhou@u-toyama.ac.jp

【研究の背景】

地震は地下の断層が活動することにより発生し、令和6年能登半島地震は能登半島北岸沖合の100 km以上の長さにつながる複数の海底活断層が連動することにより発生したことが明らかになりつつあります。一方、東京大学地震研究所や富山大学等の調査により、能登半島の内陸部である珠洲市の若山川沿いでは、最大上下変位量約2 m、左横ずれ変位量約1.2 mを示す地表変状（断層崖）が確認されています（文献1）。この地表変状（断層崖）の位置は、上記の海底活断層の位置とは10 km程度離れており、震源分布からもそれらの海底活断層との関連は見られず、令和6年能登半島地震を引き起こした断層ではないと考えられます。では、なぜこのような大きな変位量を伴う地表変状（断層崖）が若山川沿いに出現したのかは不明であり、その成因を解明することは今後の地震防災・減災を考える上で重要です。また、能登半島で起こった過去の大地震による、このような地表変状（断層崖）の繰り返しの有無を明らかにすることは、能登半島での地震履歴を知る重要な手掛かりになります。そのため、金沢大学と富山大学は関係機関と共同し、若山川沿いの地表変状（断層崖）の出現地点（図、写真1）において、掘削（トレンチ）調査の実施を計画しました。

文献1：令和6年能登半島地震（M7.6）に伴い若山川沿いに生じた地表地震断層【速報】
<https://www.eri.u-tokyo.ac.jp/news/20465/>



図：珠洲市若山町の掘削（トレンチ）調査予定地点（赤丸）（地理院地図に加筆）



写真 1：珠洲市若山町の掘削（トレンチ）調査予定地

【研究手法】

調査予定地（写真 1）のやや奥に見られる畑内の断層崖を横切るようにトレンチ（調査溝）を掘り，地下の地層を観察します。そして，地層のずれの量やその地層の年代に関わる情報を得て，断層の成因や過去の活動について明らかにします。



ショベルカーによる掘削の例



掘削により露出した地層の観察例

【現地説明会】

9月15日（日）11時および14時から，一般の方を対象とした現地説明会を予定しています。

【本掘削（トレンチ）調査について】

科学研究費助成事業（特別研究促進費）「2023年5月5日の地震を含む能登半島北東部陸海域で継続する地震と災害の総合調査」（23K17482）および令和6年能登半島地震金沢大学合同調査チーム（KUD）の助成を受けて実施します。また，掘削にあたっては，石川県地質調査業協会にご協力いただいています。